

科目名称	成人老年看護実習Ⅰ（Ⅱ・Ⅲ・Ⅳも同様）	学年学期	単位数	時間数
		2 学年前・後期		99
担当教員	井上智子 川崎由希 林厚子 村上あゆみ 田中美恵子	授業に関わる 実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有（看護師） <input type="checkbox"/> 無	

【1】概要

基礎看護実習を基盤とし、成人期・老年期の健康障害をきたしている患者とその家族との人間関係を成立させ、総合的に理解し、対象に応じた適切な援助ができる能力を習得する。

【2】学習目標

1. 対象がどのような健康障害をきたしているか理解する。
2. 援助の方向性に基づいて個別的な援助が実践できる。
3. 保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、看護職としての基本的態度を身につけることができる。

【3】ディプロマポリシーとの関連性

- 1. 生活者としての人間の理解
- 2. 人間の生命、尊厳および権利を尊重した多様な価値観をもつ人間の理解
- 3. 看護の基礎的知識・技術・態度の修得
- 4. 科学的根拠に基づいた看護援助の実施
- 5. 多職種との連携・協働
- 6. 地域医療の理解と生活の支援
- 7. 看護専門職としての主体的な学びの継続

【4】授業計画

	内 容	授業形態
実習前	基礎看護実習Ⅱ・Ⅲの実習概要についてオリエンテーションを受ける。 実習に必要な事前学習を行う。看護技術の総合演習を行い基礎看護技術の復習を行う。	学内オリエンテーション 校内実習
実習1週目	1. 病院・病棟オリエンテーションを受け、病棟の特殊性や受け持ち患者の生活の場を理解する。 2. 受け持ち患者の全体像を把握する。 3. 受け持ち患者の個別性をとらえたアセスメントをする。 4. 受け持ち患者の日常生活の援助を実施する。	実習
実習2週目	1. アセスメントの修正を行う。 2. 援助の方向性に基づき優先順位を考慮しながら援助を実施する。 3. カンファレンスに積極的に参加し、主体的に運営する。	実習
実習3週目	1. 援助の方向性に基づき優先順位を考慮しながら援助を実施する。 2. 医療チームとの連携やチームのなかでの看護師の役割について学ぶ。 3. 未経験の学習内容や不足している学習内容を自主的に実施する。 4. 学びをまとめ、自己の課題を明確にする。	実習

【5】評価方法

成人老年看護実習の到達度基準にそって、実習での取り組み、実習記録、実習前から実習後の学習状況から、学生・教員・臨地実習指導者で評価を行う。

【6】教科書

各看護の授業科目で使用した教科書を使用する。

【7】参考書

参考書は指定しない。随時指示します。

【8】受講生へのメッセージ

基礎看護実習の学びを踏まえて学びを深めましょう。